

日本海沿岸における縄文時代のサメ類利用の総合的研究（平成 27 年度）

中沢道彦・町田賢一・納屋内高史（日本海貝塚文化研究会）

1 はじめに

本研究は平成 27 年度～平成 29 年度において日本海学研究グループ支援事業の支援を受け、日本海沿岸における縄文時代サメ類利用の実態を解明する総合的な研究を行う。

縄文時代においてサメ類は食用として漁撈対象物ではあるが、サメは獰猛で、獲得の漁撈活動には危険が伴うため、捕獲者は漁撈集団の中でも階層としての地位の高さが見通される。また、サメの歯や椎骨を加工した装飾品は、サメ漁撈の危険性やサメの強さから一定の価値をもったものと考えられるが、日本海沿岸遺跡のみならず、例えば長野県宮崎遺跡などでも出土し、日本海側の価値を内陸側もその価値を共有したと考えられる。かつ最近、長野県宝に指定された長野県山ノ神遺跡縄文晩期シュモクザメ絵画土器の製作背景も日本海側の価値を内陸側が認め、独自に展開したものとの評価できる。

つまり縄文時代の日本海沿岸のサメ類利用の研究は、食料獲得の生業研究のみならず、獲得の危険性からサメ製装身具に価値を認める社会があったということで当時の社会組織を考える研究、また内陸部出土サメ関係遺物から日本海側の価値を内陸部でも受け入れたという交流実態解明の研究へと展開できる。

そのため本研究は3つの方向性と目的をもち、研究を進める。

- ①日本海沿岸の貝塚を中心に縄文遺跡出土のサメ類の動物遺存体の資料集成を行い、データベースを作成する。
- ②日本海岸及び隣接する内陸部の縄文時代遺跡から出土するサメ類の歯や椎骨を加工したサメ製装身具の集成、型式学検討、出土状況の検討を行う。
- ③縄文時代晩期後半のシュモクザメ絵画土器が出土した内陸部の長野県山ノ神遺跡出土土器や装身具などを再整理する。



山ノ神遺跡絵画土器



山の神遺跡調査写真

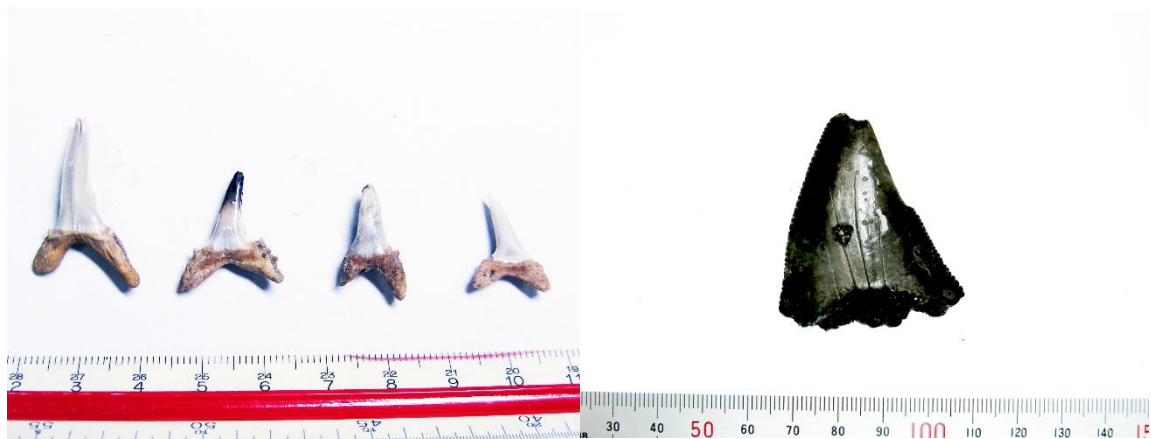
2 サメ類出土動物遺存体のデータ集成

平成 27 年度は富山県の縄文時代から中世、近世の 27 遺跡の動物遺存体データを集成するとともに、富山県朝日町境A遺跡での縄文時代中期前葉～後期前葉のアオザメ 120 点、ネズミザメ 15 点、ネコザメ 15 点、ホオジロザメ 2 点、射水市南太閤山 I 遺跡で縄文前期初頭のサメ類椎骨、氷見市大境エンニヤマ下洞窟の縄文時代中期のネズミザメ類椎骨、富山市北代遺跡 14 号住居出土の縄文時代中期のアオザメ科歯と 4 遺跡のデータを集成した。

富山県出土の海産魚類を中心とした動物遺存体データ全体を含めて集成することで、将来的にサメ類の動物遺存体データの評価が可能にする。

データ集成作業は平成 28 年度以降も継続するが、平成 27 年度のサメ類データを一部集成した範囲では富山県域の日本海沿岸で縄文時代に利用されたサメ類は、アオザメ、ネズミザメ、ネコザメ、ホオジロザメ、シロワニが確認された。特に獰猛なホオジロザメが確認された点や温帯、熱帯に生息するとされるシロワニの存在が注目される。小竹貝塚で確認されたシロワニは現在、日本海で生息が確認されておらず、当時の気候の温暖化の状況や現在との海流の違いを示すものといえる。サメの種によって時期や出土状況に偏差があるかは、今後の検討課題としたい。

また、平成 27 年度は日本海沿岸では、富山県富山市小竹貝塚、富山県氷見市上久津呂中屋遺跡、福井県福井市三十八社遺跡出土動物遺存体調査を行うほか、比較資料として長野県桝窪岩陰遺跡、湯倉洞穴遺跡、飯山市山ノ神遺跡出土動物遺存体の調査を行った。



シロワニ（富山市小竹貝塚）

ホオジロザメ（氷見市上久津呂中屋遺跡）

3 サメ製装身具の調査

日本海岸及び隣接する内陸部の縄文時代遺跡から出土するサメ類の歯や椎骨を加工したサメ製装身具の集成、型式学検討、出土状況の検討を行うことで、当時の日本海産サメ装身具の価値の高さを検証するとともに、内陸部におけるサメ装身具の比較を行うことで、日本海産のサメ装身具の価値を共有する内陸部との交流実態を明らかにし、当時の社会組織の復元を目指すことを視野に入れた。

平成 27 年度は新潟県上越市籠峯遺跡出土のサメ歯製垂飾資料調査を行った。籠峯遺跡の全体像の評価については平成 27 年 11 月開催の『明治大学日本先史文化研究所研究成果公開シンポジウム 縄文文化の繁栄と衰退Ⅱ―「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開―』において長期継続型集落と生業問題についての内容で発表を行った。

また、内陸部資料として長野県宮崎遺跡出土のサメ椎骨製耳飾、及び長野県湯倉洞穴遺跡出土サメ歯製垂飾の資料調査を行った。宮崎遺跡例は同遺跡第 5 号土壌墓で抜歯された頭骨の脇からサメの椎骨製の赤色塗彩された耳飾が出土し、椎骨はサメの椎骨の特徴を有し、メジロザメ科の可能性が高い。今後は赤色



サメ椎骨性耳飾（宮崎遺跡）

サメ製垂飾（湯倉洞穴）

顔料の分析も含めて、製作地を推定したい。宮崎遺跡例は内陸部の縄文時代後晩期の拠点集落で赤塗りのサメ製装身具が受け入れられる状況、湯倉洞穴遺跡では狩猟のキャンプサイト的な遺跡で、狩猟活動に深くかかわる者がサメ歯製垂飾を受け入れる状況から、内陸部においてサメの価値を受け入れる状況にあることを確認した。

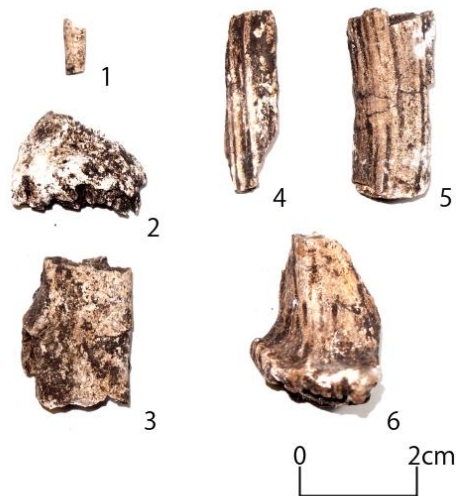
4 山ノ神遺跡の研究

縄文時代晩期後半のシュモクザメ絵画土器が出土した内陸部の長野県山ノ神遺跡出土土器や装身具などを再整理し、国内の縄文遺跡で唯一であるシュモクザメ絵画土器が出土する同遺跡全体の中で当該絵画土器の評価を行うための基礎作業を行った。

山ノ神遺跡は内陸部の長野県飯山市に所在、1972年に調査された。調査範囲内は約90㎡で、河原石が不規則に集中する集石遺構が検出された。集石の上部、下部から縄文時代晩期中葉佐野Ⅰb式、Ⅱ式土器を主体に約450個体分の土器片、土製耳飾8点、石鏃46点、石槍3点、石錐8点、搔器1点、削器3点、石錘1点、石皿1点、磨石1点、石剣4点などが出土している。2015年に長野県宝に指定された魚形線刻画土器（高橋1972）で著名な他、出土した佐野Ⅰb式、Ⅱ式土器は中部高地の縄文時代晩期土器編年研究上で重要な資料と評価されている。

魚形線刻画土器は調査直後からシュモクザメもしくはサケと調査者の高橋桂により指摘されていたが、中沢は同資料の観察から「撞木状」の描写をヤナや石棒、石剣など捕獲具と理解することの難しさ、鰭の表現からシュモクザメの蓋然性の高さを指摘した経緯がある（中沢2002）

平成27年度は出土土器の整理及び動物遺存体の整理を行った。80点ほど残存していた動物遺存体についてはイノシシ、シカ、鳥類を同定した。海産性動物遺存体やサケ類は確認できなかった。動物遺存体の同定結果は『奥信濃文化』に公表した。



山ノ神遺跡出土動物遺存体

〔参考引用文献〕

- 飯山市教育委員会 2011「魚形線刻画土器が出土した山ノ神遺跡の発掘について」『奥信濃文化』第16号 1-14頁 飯山市ふるさと館友の会
- 高橋 桂 1972「魚形線刻画のある土器片」『信濃』第24巻第11号 52-54頁 信濃史学会
- 中沢道彦 2002 「サメかサケか―飯山市山ノ神遺跡出土魚形線刻画土器をめぐって―」 『佐久考古通信』No.84 佐久考古学会 4-7頁
- 藤田富士夫 1998 『縄文再発見』 大巧社

〔平成 27 年度研究実績〕

- 納屋内高史・中沢道彦 2016 「山ノ神遺跡出土の動物遺存体について」『奥信濃文化』第 26 号 30-31 頁 飯山市ふるさと館友の会
- 納屋内高史 2016 「縄文時代貝塚・貝層から見た北陸地域における生業活動の変遷—上久津呂中屋遺跡で検出された貝層の検討を中心に—」『古代文化』投稿中 古代学協会（京都）（査読あり）
- 中沢道彦・羽深忠司 2015 「長期継続型遺跡と初期農耕の導入—新潟県上越市和泉 A 遺跡・籠峯遺跡の事例—」『明治大学日本先史文化研究所研究成果公開シンポジウム 縄文文化の繁栄と衰退Ⅱ—「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開—』 21—26 頁 明治大学日本先史文化研究所 11 月（東京）（査読無し）
- 中沢道彦 2015 「長野県域における縄文時代終末の初期農耕導入について」『長野県考古学会誌』第 151 号 9-23 頁 長野県考古学会 11 月（長野）
- 中沢道彦 2016 「佐久の縄文晩期」『佐久考古通信』No. 114 10-12 頁 佐久考古学会 3 月（長野）（査読なし）
- 町田賢一 2015 大阪府和泉市大阪府立弥生文化博物館ホール「埋もれた海と縄文人」（講演）大阪府立弥生文化博物館考古学セミナー 10 月
- 町田賢一 2015 山形県南陽市えくぼプラザ「富山県小竹貝塚について」（講演）
うきたむ学講座実行委員会 第 X 期うきたむ学講座第 1 回講座「縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・交流」11 月
- 町田賢一 2015 「富山県小竹貝塚について」『縄文時代前期遺跡シンポジウム資料集』33-44 頁 縄文時代前期遺跡シンポジウム実行委員会 11 月（山形）
- 町田賢一 2016 群馬県みなかみ町水上温泉去来荘 「小竹貝塚から見た縄文式土器のあり方」（発表） 第 29 回縄文セミナー「前期後半の型式間交渉の諸問題」2 月
- 町田賢一 2016 「小竹貝塚から見た縄文式土器のあり方」『縄文前期後半の型式間交渉の諸問題 第 29 回縄文セミナー』163-204 頁 縄文セミナーの会 2 月（群馬県）
- 町田賢一 2016 福井県若狭町若狭三方縄文博物館 「縄文人の集落・墓・貝塚 小竹貝塚の世界」（講演） 若狭町・若狭町歴史環境講座企画運営委員会 平成 27 年度第 6 回若狭町歴史環境講座 縄文分野 3 月
- 町田賢一 2016 埼玉県富士見市水子貝塚資料館 「日本海側最大級の貝塚—富山県小竹貝塚の調査—」（講演） ふじみ考古学教室 3 月
- 町田賢一 2016 「小竹貝塚の考古学的成果」『石川考古学研究会々誌』第 59 号 3-8 頁 石川考古学研究会 3 月（石川県）
- 町田賢一 2015 大阪府和泉市大阪府立弥生文化博物館ホール「埋もれた海と縄文人」（講演）大阪府立弥生文化博物館考古学セミナー 10 月
- 町田賢一 2015 山形県南陽市えくぼプラザ「富山県小竹貝塚について」（講演）
うきたむ学講座実行委員会 第 X 期うきたむ学講座第 1 回講座「縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・交流」11 月
- 町田賢一 2015 「富山県小竹貝塚について」『縄文時代前期遺跡シンポジウム資料集』33-44 頁 縄文時代前期遺跡シンポジウム実行委員会 11 月（山形）
- 町田賢一 2016 群馬県みなかみ町水上温泉去来荘 「小竹貝塚から見た縄文式土器のあり方」（発表） 第 29 回縄文セミナー「前期後半の型式間交渉の諸問題」2 月
- 町田賢一 2016 「小竹貝塚から見た縄文式土器のあり方」『縄文前期後半の型式間交渉の諸問題 第 29 回縄文セミナー』163-204 頁 縄文セミナーの会 2 月（群馬県）
- 町田賢一 2016 福井県若狭町若狭三方縄文博物館 「縄文人の集落・墓・貝塚 小竹貝塚の世界」（講演） 若狭町・若狭町歴史環境講座企画運営委員会 平成 27 年度第 6 回若狭町歴史環境講座 縄文分野 3 月
- 町田賢一 2016 埼玉県富士見市水子貝塚資料館 「日本海側最大級の貝塚—富山県小竹貝塚の調査—」（講演） ふじみ考古学教室 3 月
- 町田賢一 2016 「小竹貝塚の考古学的成果」『石川考古学研究会々誌』第 59 号 3-8 頁 石川考古学研究会 3 月（石川県）